

- JA鳥取いなばは、平成25年に「白ねぎ倍増プラン」を策定し、**新規栽培者の確保**とともに**既存栽培者の面積拡大**を目指しており、主力の秋冬ねぎの**収量向上**と**周年化**の推進が課題。
- しかしながら、八頭管内で水田転換作物として導入されている白ねぎ生産は県内他産地と比較して**低収量**。
- このため、八頭農業改良普及所では**排水対策**の徹底、**高温干ばつ時の灌水**、**白ねぎの連作**及び**堆肥施用**を推進し、**収量向上の取組を支援**。
- その結果、**専門機械による排水対策に取り組む者が増加**したほか、**灌水並びに堆肥散布による増収効果**等を実証した。

具体的な成果

1 排水対策の徹底

- 現地試験の結果、**作業性の向上効果を確認**。
- 県事業を活用したサブソイラー等の**専門機械による排水対策施工を新たに行う者が増加**。



写真2 専用機械での施工による排水効果（左：無施工区、右：施工区）

2 高温干ばつ時の灌水の効果確認と推進

- 試験の結果、水田転換圃場においても**灌水が干ばつ・湿害の影響を軽減し、収量・所得の増加につながることを確認**。

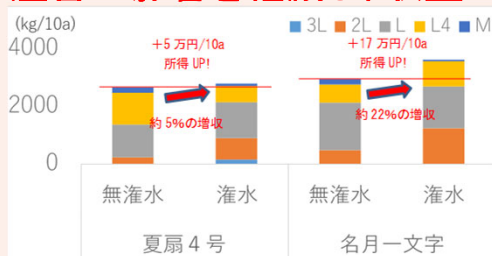


図1 灌水の有無による規格別収量の比較

3 連作圃場での栽培状況確認と堆肥施用の啓発

- 連作している圃場で、**連作による土壤病害の増加や大幅な収量の減少は見られないことを確認**。
- 八頭町内牧場産の堆肥を用いた試験では**堆肥施用による増収の効果が得られ**、八頭町の白ねぎ生産者研修会で結果を報告したところ、**八頭町の堆肥散布システムを利用した堆肥散布実施者数が増加**。

普及指導員の活動

平成30年～令和2年

- 農業試験場と協力して**専門機械による排水対策を試験し、展示圃として専門機械による排水対策が作業性向上に効果的な点を生産者に情報提供**。
- 県事業を活用して**施工委託業者への排水対策の委託を推進**。
- 重点対象農家等で**灌水を行う試験圃を設置**。
- 水田転換1年目から3年目まで、**収量の変化や病害の発生状況をモニタリング**。
- **八頭町内牧場産の堆肥を用いた圃場の生育・収量調査を実施**。
- 八頭町が構築した**堆肥散布システムを情報提供**。
- **現地試験等により得られたデータを指導会や会議の際に情報提供**。

普及指導員だからできたこと

- ・ 日々の活動で**農家の声に耳を傾けることにより問題点を洗い出し、課題解決に向けた取組を実施**することができた。
- ・ 県事業を活用することによって、経費を抑えながら専門機械による排水対策ができることを伝えたことが、**効果的な排水対策を行うきっかけ**となった。
- ・ 灌水や連作、堆肥施用などの**試験データを複数年蓄積し**、会議の際に**関係者に情報提供**することで、**産地全体に取組の効果を周知**できた。

鳥取県

水田導入野菜の収量向上～白ねぎ収量UPへの取り組み～

活動期間：平成30～継続中

1. 取組の背景

J A鳥取いなばは、平成25年に「白ねぎ倍増プラン」を策定し、新規栽培者の確保とともに既存栽培者の面積拡大を目指しており、主力の秋冬ねぎの収量向上と周年化の推進が課題である。しかしながら、八頭管内で水田転換作物として導入されている白ねぎ生産は低収量であり、高収益の魅力ある品目になっていない。

2. 活動内容（詳細）

（1）排水対策の徹底

平成30年度、農業試験場の現地試験圃場として、重点対象農家で専門機械による排水対策を実施した（写真1）。また、現地試験圃場を展示圃として、専門機械による排水対策が作業性向上に効果的な点を生産者へ情報提供し、必要性を啓発した。

さらに、平成30年度～令和2年度、県事業「戦略的園芸品目（白ねぎ）総合対策事業」の活用により、J Aアグリサービスへの排水対策の委託を推進し、対策実施圃場で効果の確認を行った。

（2）高温干ばつ時の灌水の効果確認と推進

重点対象農家で灌水を行う試験圃を設け、その効果を確認した（写真2）。また、灌水の方法や費用などを生産者に情報提供するリーフレットを作成・配布した。

（3）連作圃場での栽培状況確認と堆肥施用の啓発

重点対象農家の連作圃場について、水田転換1年目から3年目まで、収量の変化や病害の発生状況をモニタリングした。

八頭町内牧場産の堆肥を用いた生育・収量調査を実施するとともに、八頭町が構築した堆肥散布システムの情報提供を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）排水対策の徹底

現地試験の実施や県事業の活用（専門業者への委託）等により、バイプロソイラーやサブソイラー等の専門機械による排水対策の効果について、生産者の理解が深まった。

現地試験の結果では作業性向上の効果が確認された。さらに、平成30年度～令和2年度、県事業「戦略的園芸品目（白ねぎ）総合対策事業」の活用により、J Aアグリサービスへの排水対策の委託を推進し、対策実施圃場の効果の確認を行った。その結果、県事業活用による排水対策施工をR2年までに管内

で5件が実施した他、排水対策の地元業者への委託や個人で専門機械を取得する動きがみられるようになり、排水対策の実施者が増加した。

(2) 高温干ばつ時の灌水の効果確認と推進

試験圃場での灌水試験の結果、鳥取県東部の水田転換圃場でも灌水が干ばつや湿害の影響を軽減し、収量の増加(5～22%の増収)と所得向上につながることを示された(図1)。

(3) 連作圃場での栽培状況確認と堆肥施用の啓発

3年間連作している圃場で、連作による土壌病害の増加や大幅な収量の減少は見られないことを確認した。

八頭町内牧場産の堆肥を用いた試験では堆肥施用による増収・所得向上効果が得られ(図2)、八頭町の白ねぎ生産者研修会で結果を報告したところ、八頭町の堆肥散布システムを利用した堆肥散布実施者が増加した。

4. 農家等からの評価・コメント(八頭町A氏)

灌水や連作をすると病気が出やすくなるのではないかと心配していたが、そのようなことはないと言って安心した。堆肥散布もこれまでやってこなかったが、それなりに所得が上がるということが分かったので、挑戦してみたい。

5. 普及指導員のコメント

(八頭農業改良普及所・改良普及員・吉田伊織)

近年の大雨・長雨後の滞水による病害の多発もあり、排水対策の重要性は農業者に十分周知されているように感じる。しかし、まだまだ収量が低い農業者が多いため、排水対策に加えて、灌水の実施や連作・堆肥施用を組み合わせることによる収量向上の取組支援をしていきたい。

6. 現状・今後の展開等

(1) 排水対策の徹底

専門機械による効果的な排水対策実施者を増やし、排水対策の実施をさらに普及させる。

(2) 灌水実施の普及

灌水による腐敗や病害の蔓延、雑草発生の助長を懸念する声があるため、病害発生や雑草の詳細な調査を行う。また、高温・干ばつ時に加えて定植直後の頭上灌水の推進も行う。

(3) 連作の普及・推進

連作障害を懸念し1～2年で水田に戻す生産者は依然として多いため、土壌病害や生育不良は、排水改善と適切な灌水で軽減可能なことを丁寧に説明するなどし、3年以上の連作を推進する。

(4) 堆肥施用の推進

堆肥の運搬・散布の労力や金銭面等がネックとなっているため、八頭町の堆

肥散布システムの積極的な推進を行う。

(5) 耐病性・在圃性・耐暑性の高い品種の選定と普及

収量向上には品種の変更も有効であると考えられるため、有望品種と既存品種の生育状況の確認および収穫調査を行い、その結果を評価して生産者へ情報提供する。



写真1 専門機械での施工による排水効果 (左：無施工区、右：施工区)



写真2 灌水試験の実施 (左：灌水区、右：無灌水区)

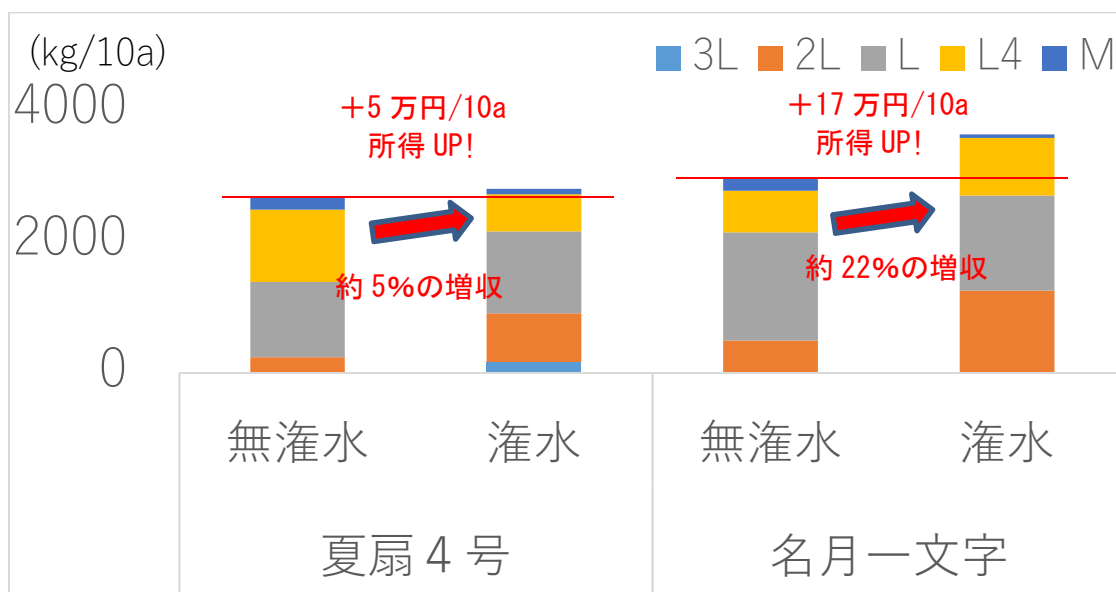


図1 灌水の有無による規格別収量の比較

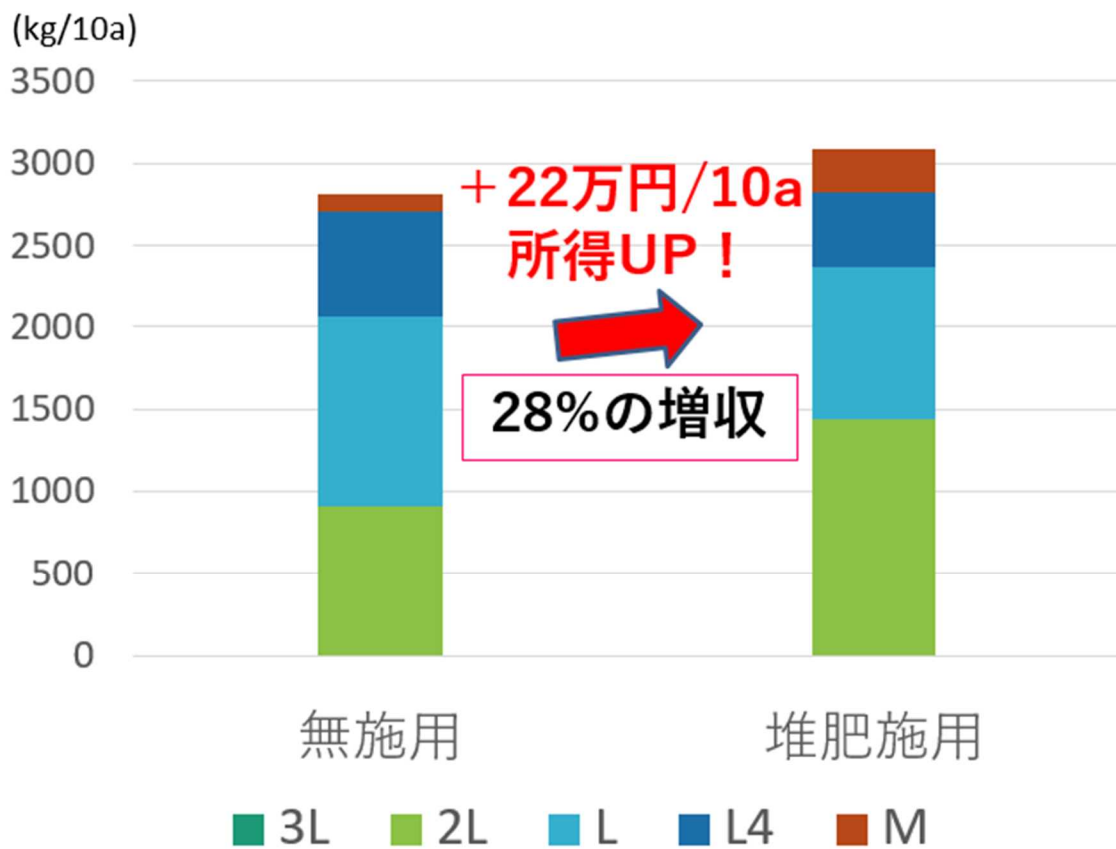


図2 八頭町内牧場産堆肥施用時の収穫量の比較